



2019 (令和元)年7月20日(土)

藤 棚

第371号

狭山ヶ丘学園 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>
<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/js/>

夏に燃え、夏を楽しむ

校長 小川義男

40日授業がない等というのは、何と豪華な話だろうか。外国では、夏休みが、ふた月というところが多いそうである。驚く人も多かろうが、これは「学ぶのは本人」という前提に立っているからだと思われる。

日本の中、高等学校は、当否はともかく、教師中心の授業が原則になっている。その利点も多かろうが、私は「自分中心の積極的な学習」という中でこそ、効率的に実力を身につけることが出来ると確信している。夏休みは、諸君を解放するのではなく、この積極的な学習に没入して頂きたいとの願いから、制度化されたものだと思ふ。師弟共に、自由でのびやかな、積極的研究、学習に取り組むことが、精神衛生にも好ましい結果をもたらすと、私は確信する。

一方的な授業では、本当の実力はつかない。自らが中心となり、足らざるところに向けて学習努力を集中する、これが最も効率的な学習方法なのである。

休みになると、教師の長期ゼミに参加したり、予備校に通ったりする人が増える。分らないが、私なら、「教わる勉強」は早々に切り上げ、書齋若しくは、本校の中央図書館に立てこもる。そこで、自分なりの主体的学習を展開する事が、最も効果的なのである。

自学自習、これが栄光への登竜門だと知れ。

山野に精神を深め身体を鍛えよ

運動部で体を鍛えるのは、素晴らしい事だ。弁論部主将として活動したのが、私の高校時代だが、知識中心の生活の脆さは知っていた。獵師が、「熊を捕るならここ」というピンネシリ岳に、部員中心に20人で登ったのも、その「文人的弱さ」を熟知していたからである。テントをかついで陸路25キロ、帰って数日は、歩けずに、家の中を這って歩いた。

運動部の諸君は、この休みを、星を見つめたり、夜露に濡れた草を、素足で踏んだりすることにも使って欲しい。

「文人諸君」は、この際、海に山に、その肉体を鍛える事に用いてはどうか。

また、学校は休みなのだから、詩集、名作等に触れる機会としても活用して欲しい。平素の高校生活、中学生活では出来ないことのために生かす、それが夏休みなのだ。

私的な話だが、私はフェリーで小樽に渡り、北海道の山野をドライブしてみようかと思う。

夏は危険が一杯 身を守る術を心得よ

世界一と言われる日本の治安も、悪くなってきている。

「良家の子女は、日没以後の一人歩きは慎む」これが、我が民族の伝統である。特に今は、車社会だから、悪人達に、中に引きずり込まれたりしたら、人生のすべてが転換すると思わなくてはならない。親たちも、最近の世相の悪化に楽天的でありすぎると私は思う。

私は男だが、日没以後に、徒歩で一人歩きするという事は、若い頃から慎んでいる。最近は、特にそうである。

女生徒は、学校への行き帰りにも、集団で行動する事が望ましい。裏通りには、諸君には想像も出来ない危険が一杯である。

最近、意味もなく刃物を振り回す犯人がいる。男子も、安全には常に配慮していなくてはならない。

エアコンが普及し、窓を開け放って寝るといようなケースは少なくなったが、それでも、鍵を掛けていない玄関から殺人者が侵入し、凶行に及んだといようなケースが少なくない。不用心な話である。鍵は、その都度確実に閉めるよう心がけなくてはならない。

海も山も素晴らしいが危険一杯でもある

「崖からの転落」といような報道が後を絶たない。軽装で山に入り、冷えと空腹で疲れ果て、転落したといような報道もある。海であれ、山であれ、十分な装備、準備がなければ近づいてはならないのだ。

月の輪熊の出没ということは、先ずあるまいが、最近ではイノシシ、鹿の危険もある。海では、昔はあまり見られなかったクラゲによる被害も報告されているし、状況によっては溺死の危険もある。

いつも語る事だが、離岸流には、特に気をつけなくてはならない。

砂浜は遠浅が続くが、岸に近づいてかえって深くなるというケースもある。

また、海には、悪質なグループが徘徊するといようなケースも少なくはない。私は、できれば、家族と共に同行することが望ましいと思うが、若者だけの行動の場合は、特段の用心深さが必要である。

秋風立つ頃、全員元気に再会しよう